



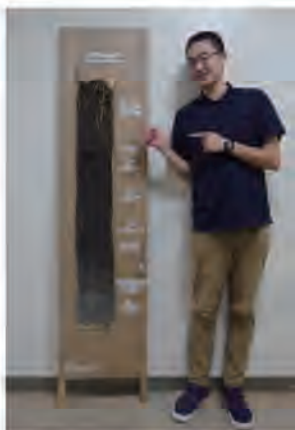
防災トピック1

大岐の津波の地層を展示中

昨年度、筑波大学の嶋田さんと産業技術総合研究所の澤井さんたちが大岐地区の地層から津波浸水履歴の調査を行い、そのときに採取した地層の剥ぎ取り標本を寄贈してくださいました。この標本では今回の調査で発見された1498年の明応地震の際の津波でできたと思われる地層が確認できます。

標本は、現在、大岐地区のみなさんに見ていただくため、大岐福祉センターに展示中。

9月の防災月間に合わせ、大岐地区の子ども会で、今井専門員がこの標本を使った防災学習を実施します。



剥ぎ取り標本と今井専門員

防災トピック2

爪白の海底遺構から考える過去の災害

高知県内には、684年に発生した白鳳地震により海に水没した集落「黒田郡」の伝承が数多く残されています。爪白海岸には石柱が水没していることは以前より知られており、黒田郡伝承との関係性が指摘されていました。これを明らかにするため、高知大学と海洋研究開発機構が石柱を引き揚げ、分析しました。その結果、この石柱は黒田郡伝承にある白鳳地震ではなく、1707年の宝永地震もしくは1854年の安政地震による津波によって沿岸の集落から流出した可能性があることがわかりました。今後、自然災害の歴史を学ぶ教材として、土佐清水ジオパーク構想でもこの石柱を活用していく予定。石柱は9月23日まで高知みらい科学館で開催中の企画展「高知の海をカガクする」で、展示されています。



爪白海岸の石柱
写真提供：電串ダイビングセンター

私たちが住む日本は、地球上でも特に地殻変動が活発な場所。そんなところに住んでいる以上、自然災害といつとも隣り合わせです。土佐清水の大地も、地震や津波、台風、洪水、地すべりといった自然災害を幾度となく繰り返してきました。私たちは、時に危険にさらされることもありませんが、この大地と自然の恵みを活かし、産業を作り、生活を営んで

きました。ですから、自然災害から身を守るためには、住んでいる土地の成り立ちや、自然のメカニズムを知ることがとても重要です。ただ災害を恐れ、自然を制圧しようとするのではなく、大地や自然とうまく付き合っていく姿勢がジオパークでは求められています。今月は防災月間ということで、歴史的な災害との関わりについてのトピックを紹介いたします。

9月は
防災月間

ジオパークで考える防災のこと

平成30年度学術研究
支援事業の紹介(全5回)

とさしみずの研究

近年、土佐清水でも外国人旅行者を見かけることが多くなりました。今回紹介するカレイラ先生の研究は、土佐清水でのフィールドワークと、トリップアドバイザーなどのweb上のレビューから外国人観光客から見た土佐清水を客観的に分析したもの。外国語を流暢に話せることが理想だけれど、まずは「伝えようとする」姿勢や、相手に関心をもち、受け入れることが大切。そうすると、相手が何を望んでいるのか、何が足りないのか見えてくるんじゃないかと思います。

第5回

土佐清水ジオパーク構想における
外国人観光客に関する調査

研究した人

東京経済大学
教授 カレイラ松崎 順子さん

初めて土佐清水市に伺わせていただきました。日本にもこんなに素敵なお店があったのかと、とても感動いたしました。今回は土佐清水ジオパーク構想エリアにおける外国人観光客に関する調査を行いました。その中で改善したほうがいいと思われる点は、Google mapにおいて中村駅以降の公共交通手段を検索できないことです。たとえば、足摺バスセンターと入力してみると、車での行き方は表示されますが、「経路が見つかりません」と表示されます。これではレンタカーを借りない旅行者は行くのを断念してしまうのではないのでしょうか。また、いくつかのお店や旅館の方が翻訳アプリを使うので外国人との交流には困らないとおっしゃっていただきましたが、外国人のレビューを読めると「一言もしゃべらなかった」「英語が通じない」などと書かれており、やはり最低限の英会話ができるようになったほうが「おもてなし」の心を表すことができるのではないかと感じました。

イベント

台風のあとは ビーチコーミングを

今年も台風シーズン到来。台風のあとは、大量の海洋ゴミと共に珍しい貝殻なども海岸に打ち上げられます。台風のあとの清掃を兼ねて、ビーチコーミングをしませんか？打ちあげられた漂着物は分類して、黒潮の流れや海洋汚染のことを調べる学術資料として活用します。

日時や場所は台風通過後、推進協議会モヤフェイสบックでお知らせします。

